

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
【部門区分】第 7 部門第 3 区分
【発行日】令和 6 年 3 月 8 日(2024.3.8)

【公開番号】特開 2023-154040(P2023-154040A)
【公開日】令和 5 年 10 月 18 日(2023.10.18)
【年通号数】公開公報(特許)2023-196
【出願番号】特願 2023-131662(P2023-131662)
【国際特許分類】

H 0 4 N 19/105(2014.01)

10

H 0 4 N 19/157(2014.01)

H 0 4 N 19/172(2014.01)

H 0 4 N 19/70(2014.01)

【F I】

H 0 4 N 19/105

H 0 4 N 19/157

H 0 4 N 19/172

H 0 4 N 19/70

【手続補正書】

20

【提出日】令和 6 年 2 月 28 日(2024.2.28)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

エンコーダにおけるビデオ符号化のための方法であって、

幾何マージモードマージ候補の最大数を決定するステップと、

30

前記幾何マージモードマージ候補の最大数とマージ候補の最大数との間の関係に基づいて、幾何マージモード候補の最大数の情報を生成するステップと、

コーディング情報を含むコード化ビデオビットストリームを生成するステップであって、前記コーディング情報は、幾何マージモードが現在のピクチャのピクチャレベルより高いコーディングレベルに対して有効にされ、前記マージ候補の最大数が条件を満たすことを示す、ステップと

を含み、

前記幾何マージモードマージ候補の最大数は、前記マージ候補の最大数から、前記幾何マージモード候補の最大数の情報によって示された値を減算した値に等しい、方法。

【請求項 2】

40

前記幾何マージモードは三角区分モード(TPM)であり、前記幾何マージモードマージ候補の最大数は TPM マージ候補の最大数である、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 3】

前記コーディングレベルはシーケンスレベルである、請求項 2 に記載の方法。

【請求項 4】

前記条件は、前記マージ候補の最大数が 2 以上であることである、請求項 2 に記載の方法。

【請求項 5】

前記条件は、前記マージ候補の最大数が 2 以上であることであり、

前記幾何マージモード候補の最大数の情報はピクチャレベルパラメータに含まれる、請

50

求項 3 に記載の方法。

【請求項 6】

TPM マージモード候補の最大数を示すピクチャパラメータセット (PPS) レベルパラメータは、前記現在のピクチャに関連付けられた PPS のための前記コード化ビデオビットストリーム内でシグナリングされ、

前記 PPS レベルパラメータは、(i) 0 および (前記マージ候補の最大数 - 1) によって定義された範囲内の数、または (i i) (前記マージ候補の最大数 + 1) である、請求項 5 に記載の方法。

【請求項 7】

前記 TPM マージ候補の最大数を示すピクチャパラメータセット (PPS) レベルパラメータは、前記現在のピクチャに関連付けられた PPS のための前記コード化ビデオビットストリーム内でシグナリングされない、請求項 5 に記載の方法。

【請求項 8】

前記コード化ビデオビットストリームは、前記現在のピクチャのためのピクチャヘッダを含み、

前記幾何マージモード候補の最大数の情報は、前記 TPM が前記シーケンスレベルに対して有効にされること、および前記マージ候補の最大数が 2 以上であることに基づいて、前記ピクチャヘッダ内でシグナリングされ、前記幾何マージモード候補の最大数の前記シグナリングは、前記 PPS レベルパラメータから独立している、請求項 7 に記載の方法。

【請求項 9】

前記コード化ビデオビットストリームは、前記現在のピクチャに関連付けられたピクチャパラメータセット (PPS) を含み、

前記 TPM マージ候補の最大数を示す PPS レベルパラメータは、前記 PPS レベルパラメータがシグナリングされるべきことを PPS レベルフラグが示すことに少なくとも基づいて、前記 PPS 内でシグナリングされる、請求項 5 に記載の方法。

【請求項 10】

前記コード化ビデオビットストリームは、前記現在のピクチャのためのピクチャヘッダを含み、

前記幾何マージモード候補の最大数の情報は、前記 TPM が前記シーケンスレベルに対して有効にされること、前記マージ候補の最大数が 2 以上であること、および前記 PPS レベルパラメータがシグナリングされるべきでないことを前記 PPS レベルフラグが示すことに基づいて、前記ピクチャヘッダ内でシグナリングされる、請求項 9 に記載の方法。

【請求項 11】

前記コード化ビデオビットストリームは、前記現在のピクチャに関連付けられたピクチャパラメータセット (PPS) を含み、

前記 TPM マージ候補の最大数を示す PPS レベルパラメータは、前記 TPM が前記シーケンスレベルに対して有効にされることに少なくとも基づいて、前記 PPS 内でシグナリングされる、請求項 5 に記載の方法。

【請求項 12】

エンコーダにおけるビデオ符号化のための方法であって、

幾何マージモードマージ候補の最大数を決定するステップと、

コーディング情報を含むコード化ビデオビットストリームを生成するステップであって、前記コーディング情報は、幾何マージモードがシーケンスレベルで有効にされること、幾何マージモード候補の最大数の情報、およびマージ候補の最大数を示し、前記幾何マージモードマージ候補の最大数の情報は、前記幾何マージモードマージ候補の最大数と前記マージ候補の最大数との間の関係を示す、ステップと

を含み、

前記幾何マージモードマージ候補の最大数は、前記マージ候補の最大数から、前記幾何マージモード候補の最大数によって示された値を減算した値に等しい、方法。

【請求項 13】

10

20

30

40

50

前記幾何マージモードは三角区分モード（ＴＰＭ）であり、前記幾何マージモードマージ候補の最大数はＴＰＭマージ候補の最大数である、請求項１２に記載の方法。

【請求項１４】

前記マージ候補の最大数は２であり、前記幾何マージモード候補の最大数の情報は前記コード化ビデオビットストリーム内でシグナリングされず、

当該方法は、前記幾何マージモードマージ候補の最大数が２であると決定するステップをさらに含む、請求項１２に記載の方法。

【請求項１５】

ビデオ符号化のための装置であって、

請求項１乃至１４のうちいずれか１項に記載の方法を実行するように構成された処理回路を含む装置。

10

【請求項１６】

１つまたは複数のプロセッサに請求項１乃至１４のうちいずれか１項に記載の方法を実行させるプログラム。

20

30

40

50